

学校評価に係る意識調査（保護者、児童、教職員）についての考察

1 「教育活動評価アンケート」集計表（対象；保護者）

（1）評価

- ・数値は「そう思う」、「おおむねそう思う」を合わせた肯定的な回答数の割合（％）を
 ※90％以上：A 80％代：B 70％代：C 60％代：D 50％代：E 50％未満：F
 ※上段；令和3年度、下段；令和2年度の回答
 ※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

No	設 問	全校
①	お子さんは、楽しく元気に学校に通っている。	A A
②	お子さんは、基礎・基本を身につけている。	A A
③	お子さんは、授業内容を理解している。	A A
④	お子さんは、家庭学習に自分から取り組んでいる。	C D
5	お子さんは、本をよく読んでいる。	E D
⑥	お子さんは、元気に自分からあいさつをしている。	C C
⑦	お子さんは、思いやりがあり、やさしい行動ができています。	A A
⑧	お子さんは、友達と仲良く生活できている。	A A
⑨	お子さんは、運動に進んで取り組んでいる。	B C
⑩	お子さんは、望ましい生活習慣を身につけている。	B B
11	教職員は、熱意を持って教育にあたっている。	A A
⑫	教職員は、ひとりひとりの子どもを大切にされた指導や支援を行っている。	A A
⑬	教職員は、わかりやすい授業をしている。	A A
⑭	教職員は、授業内容や指導方法の工夫をしている。	A A
⑮	学校は、教育方針や子どもの様子を学校・学年だよりやHP、参観日等で公開している。	A A
⑯	学校は、家庭への連絡や相談をきちんと行っている。	A A
⑰	学校は、何かあった時、すぐに対応している。	A A
⑱	学校は、子どものことについて気軽に相談できる体制をとっている。	A B
19	学校は、登下校や学校生活の子どもの安全確保をしている。	A A

⑳	学校は、不登校やいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	A A
㉑	学校の年間行事計画や、授業参観の時期や回数は適切である。	A B
㉒	学校は、小規模校の特性を生かした教育活動を展開している。	A A
㉓	学校は、家庭、地域との連携を大切にしている。	A A

(2) 考察

昨年度よりも数値が上昇している項目が7、下がった項目が16となった。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため休校や分散登校、例年実施出来た行事が出来なかつたりしたため、保護者によって受け止め方が様々であった。しかし、数値の低い項目、数値の下がっている項目については、真摯に受け止め、今一度見直していかなくてはならない。

それぞれの項目については以下の通りである。

- (No.1) コロナ禍でも出来ることを工夫して子どもたちが希望を持って登校できるように、これからも教育活動を工夫していきたい。
- (No.2) 年度初めにまずおさえる基礎・基本の指導が出来ないまま授業に入ったためか、「身につけていない」との評価と考える。改めて年度初めの指導の大切さを受け止め、来年度に活かしていきたい。
- (No.3) これまで取り組んできた様々な授業研修の成果ととらえ、今後も研究と修養に励み、授業力のアップに取り組んでいきたい。
- (No.4) 分散登校での家庭学習がきっかけとなって自分から取り組んでいるとの評価と思われる。しかし、児童と職員アンケートは共に70%代と低い数値となっており、保護者、児童、教職員共通の本校の大きな課題の一つとなっている。家庭学習のあり方や取り組ませ方について再度検討し、家庭学習の充実を図っていきたい。
- (No.5) 分散登校での課題の一つとして読書があったことやブックリンピックを実施し、読書の充実にも力を入れている成果と考える。数値自体は高くないので、取り組み方の工夫が必要と考える。
- (No.6) 今年度は「**あ**ったらおじぎ、**い**つも、**さ**きに、**つ**たえたい気持ちで」を合い言葉に取り組んできた。コロナ禍の中で、「声を出さずにおじぎをする」という指導を年度初めに行った。その後、マスクをした状態でも声を出そうと声かけをしたが、あいさつをする習慣がなくなってきた。コロナ禍でも、だれにでも気持ちのよいあいさつができるように、これからも指導を継続していきたい。
- (No.7) 道徳の授業の充実を図るのはもちろんのこと、教育活動のすべての場面で指導を行い、豊かな心を育てていきたい。
- (No.8) 子供たちの様子をしっかりととらえ、今後も、仲間作り活動を充実させ、良好な人間関係作りを行っていきたい。
- (No.9) ソーシャルディスタンスを取りながらの体育の授業であつたり、ボールや遊具の使用の禁止等の制限の中では運動に進んで取り組めなかつた。リズム縄跳びや遊友スポーツランキングにも取り組んでいるが、さらに工夫して取り組みたい。
- (No.10) 年度初めの休校や分散登校から望ましい生活習慣を身につけることが出来なかつたと考えられる。学級担任による学級指導はもちろんのこと、いろいろな場面で全職員が同じ歩調で指導をしていきたい。また、家庭や地域の協力を得ながら改善していきたいと考える。

- (No.11) コロナ禍での対応に評価にご指摘があったことが一因と考える。評価が下がったことを謙虚に受け止めて、97.6%の保護者の方々に肯定的に評価をいただいていることを励みとし、今後も教育活動にあたっていきたい。
- (No.12) 「熱意を持って教育にあっているが、ひとりひとりの子どもを大切にされた指導や支援になっていない。」との評価をしている保護者がいる結果となっている。熱意が空回りしないように、保護者や子どもの声を大切にしながら、教育活動を行っていきたい。
- (No.13) この結果を真摯に受け止めて日ごろの教材研究や指導法の研究を怠らず、分かりやすい授業作りを心がけていきたい。
- (No.14) この結果も真摯に受け止めて日ごろの教材研究や指導法の研究を怠らず、授業内容や指導方法の工夫をしていきたい。
- (No.15) ホームページの更新の頻度が少なくなったためが主な原因と考えられる。来年度、充実したホームページ作りを行い、学校の様子を発信していきたい。また、学年だよりや学校だよりの工夫をしていきたい。
- (No.16) 本校のめざす教師像の一つである「誠意」の部分の評価ととらえ、今後もさらに丁寧な対応を心がけていきたい。
- (No.17) 本校のめざす教師像の一つである「スピード」の部分の評価ととらえ、迅速に対応していきたいと考える。
- (No.18) 「気軽に相談できる」という項目の数値が上がったことはうれしいことである。今以上に、相談しやすい雰囲気作りを心がけていきたい。また、悩み事相談員や相談箱の周知を図りたい。
- (No.19) 日々地域の見守りボランティアの方々の協力が評価されたものと考え、地域の見守りボランティアの方々に深く感謝したい。また、職員でも登下校指導や毎日の登校指導等子どもたちの安全確保に力をいれていきたい。
- (No.20) 日頃、子供の様子を観察したり、定期的にアンケートを実施したりして実態把握に努めている。また、情報を共有して複数職員で早めの対応で、不登校やいじめのない学校をめざしているが、厳しい評価となってしまった。今後もさらにアンテナを高くしながら、そのときとれる最良の方法で、生徒指導にあたっていきたい。
- (No.21) 今年度は、例年通りの行事や授業参観は実施出来なかった。コロナ禍の中でできる限り行事や授業参観を実施しましたが、保護者の評価は厳しいものとなった。来年度も、様々な状況に対応しながら工夫して行事を計画実施していきたい。
- (No.22) 小規模校の特性を生かした活動を行ってきたのだが、十分に伝わっていない部分がある。授業参観が2回実施し、1回は配信での参観であった。また、作品展で学校を訪れることがなかったことが十分に伝わっていないと考える。来年度も、様々な状況に対応しながら工夫して教育活動を展開していきたい。
- (No.23) 今年度は、地域、保護者と連携しての活動はほとんど出来ない状況にあった。来年度も、様々な状況に対応しながら工夫して連携していきたい。

2 「学校生活アンケート」集計表 (対象；児童)

(1) 評価

- ・数値は「とても」、「はい」を合わせた肯定的な回答数の割合(%)を
 - ※90%以上：A 80%代：B 70%代：C 60%代：D 50%代：E 50%未満：F
 - ※上段；令和2年度、下段；令和元年度の回答
 - ※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

1	学校は、楽しい。	A A
2	学校の勉強がわかる。	A A
3	授業中、先生や友だちの話をしっかり聞いている。	A A
4	自分の考えを発表している。	C C
5	自分からすすんで、家庭学習をしている。	D C
⑥	クラスには、いっしょに遊んだり相談したりできる友だちがいる。	A A
7	学校のことを大切にしている。	A A
⑧	自分から進んで運動している。	B B
9	外遊びをしている。	B B
10	あったらおじぎ、いつも、さきに、つたえたい気持ちで、あいさつをしている。 あかるく、いつも、さきに、つたわる大ききさで、あいさつをしている。	B B
⑪	給食をすききらいなく食べている。	B B
12	掃除にいっしょうけんめいとりくんでいる。	A A
13	本をよく読んでいる。	C C
⑭	図書室をよく利用している。	E E
⑮	音読がすき。	D D
⑯	安全に注意して登下校している。	A A
⑰	学校で火事や地震がおきた時、どうしたらよいか知っている。	A A
18	先生は、ひとりひとりに話しかけたり、話をよく聞いてくれたりする。	A A
⑲	先生は、がんばったことをほめてくれる。	A A
20	地域の活動に進んで参加している。	F E
⑳	学校のきまりを守っている。	A A
22	持久走記録会やオータムフェスティバルなどの行事にいっしょうけんめい取り組んでいる。	A A

(2) 考察

昨年度よりも数値が上昇している項目が 10、下がった項目が 12 となった。

- (No.1) 休校や分散登校開けの時は、「学校が楽しい」という実感が持てた。しかし、コロナ禍の中で、様々な制限がある中での学校生活なため、「楽しさ」を感じられなくなったと考える。来年度は、いろいろなプロセスを経た結果充実した活動ができ「楽しい」というように、楽しさの中身の充実を図っていききたい。
- (No.2) 保護者アンケートでは評価を得たが、数値的にはほぼ横ばいである。今後も授業研究に力を入れ、「わかる授業」「楽しい授業」を展開できるよう努力していききたい。
- (No.3) コロナ禍の中で、子ども達の席の間隔をとったため、話をしっかり聞く姿勢が出来たと考えられる。今後も聞く姿勢を大切にしていきたい。
- (No.4) 自分の意見を発表することを苦手とする傾向があるが、昨年も数値が上昇している。しかし、子ども達は自分の考えを堂々と発表している割合が低い。子ども達の発表する機会を多くし、達成感を高めていきたい。
- (No.5) 数値は上昇したが、家庭学習の充実は本校の課題の一つである。「宿題」以外に自分から進んで行う学習にどう取り組ませるかをさらに考えたい。
- (No.6) 各担任が一人ひとりの児童をしっかりと見守ってクラスにひとりぼっちを出さないかわりを大切にしたり取り組みを今後も継続して進めていきたい。
- (No.7) ほぼ 100%に近い値である。みんなのものをどれだけ丁寧に、そして大切にできるか、この気持ちをいろいろな場面で継続させていきたい。
- (No.8) 部活動を制限したためか、進んで運動する児童の割合が高学年に低い傾向がみられる。また、ソーシャルディスタンスを取りながらの運動のため友達と一緒に運動する機会が減ったと思われる。レクや運動の実施方法を工夫し、外運動を励行したい。
- (No.9) 体育の授業でリズム縄跳びに取り組んでいる。そのリズム縄跳びを行間や昼休みにも実施しているため、多くの児童が参加しその後外遊びに移行しているためと考える。来年度も工夫して外で体を動かすようにしていきたい。
- (No.10) 保護者と教員は 70%代、児童は 80%代となっている。今年度は「あいさつ」=「おじぎ」と児童は捉え、保護者や教員は「あいさつ」=「声にだして言う」と捉えている違いと考える。コロナ禍であるが、声に出して「あいさつ」する指導を継続していきたい。
- (No.11) 給食の時間は無言で全員前を向いて食べている。話をせずによくやっていると思う。給食を通した「食育」の仕方を工夫して、好き嫌いなく食べることの意義を伝えていきたい。
- (No.12) 15分間の清掃の時間、児童はやるべき分担をしっかりとこなしているが、学校がきれいになって気持ちがよいという喜びも教え、さらに清掃活動を充実させたい。
- (No.13) 休校期間や分散登校から読書を推進し、全校で取り組んでいるブックリンピックの成果と考えられる。担任も指導していることから読書をする児童の割合が増えたと考える。
- (No.14) 読書をする児童が増えたが、図書室を利用する割合が減少した。担任が児童を引き連れて図書室を利用する時間にあまり変化はない。行間や昼休み時間の利用の仕方に変化が出たためと考える。
- (No.15) 数値は上昇したが、62.8%と低い。「音読」について、子供たちにその意義をしっかりと伝え、さらに充実した活動にしていきたい。
- (No.16) 登下校時に、地域の安全見守りボランティアのみなさんが子供たちを熱心に見守って行っていていただいているおかげで安全に登下校している。しかし、歩く姿を見ると、安全に対する注意が散漫になっている児童もいるので、しっかりと指導していきたい。
- (No.17) 今年度は、学校で実施している避難訓練の回数が例年より減少したことが原因と

考える。来年度は、避難訓練の実施回数を例年通りに実施し、「自分の身は自分で守る」という意識化を図るための指導や訓練を適宜実施していきたい。また、「落ちてこない、倒れてこない」場所を探せるようにショート避難訓練の実施にも力を入れていきたい。

(No.18) 教職員の努力の成果ととらえたい。今後もさらに子供たちに目を配りながら教育活動を進めていきたい。

(No.19) ほめることは子供を育てるための重要なポイントである。一人ひとりの児童の観察をしっかり行い、その児童が今何に響くのかを見極めて、効果的なほめ言葉で子供たちをさらに伸ばしていきたい。

(No.20) 今年度は地位域との関わる行事が全て中止となった。また、例年地域の方々を講師としての行事も中止したため低い数字となっている。学区内各地域で行われている行事に積極的に参加することで地域の絆が強くなっていくものと考えられるので、指導の難しさを感じるが、地域との関わり方の意義を理解させたい。

(No.21) 特定の児童が決まりを守っていないことへの評価かもしれないが、みんながきまりを守ること、自分も守られていくということ、発達段階に応じて指導していきたい。

(No.22) 今年度は、行事の数が少なかったために不得意な行事の取組しかなかった児童がいたためと考えられる。来年度は、工夫して子供たちに達成感を持たせられるようにきめ細かく指導していきたい。

3 「自己評価」集計表 (対象；教職員)

(1) 評価

- ・「A」…「とてもそう思う」、「B」…「そう思う」
- ・「割合」は、「A」、「B」を合わせた肯定的な回答数の割合(%)を
 ※90%以上:A 80%代:B 70%代:C 60%代:D 50%代:E 50%未満:F
 ※上段；令和2年度、下段；令和元年度の回答
 ※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

1	児童は、楽しく元気に学校に通っている。	A A
2	児童は、基礎・基本を身につけている。	A A
3	児童は、授業内容を理解している。	A A
4	児童は、家庭学習に自分から取り組んでいる。	E C
5	児童は、本をよく読んでいる。	E C
6	児童は、元気に自分からあいさつをしている。	D C
7	児童は、思いやりがあり、やさしい行動ができている。	A A
8	児童は、友達と仲良く生活できている。	A A

9	児童は、運動に進んで取り組んでいる。	A A
10	児童は、望ましい生活習慣を身につけている。	A A
11	自分は、熱意を持って教育にあたっている。	A A
12	自分は、わかりやすい授業をしている。	A A
13	自分は、授業内容や指導方法の工夫をしている。	B A
14	自分は、図書室活用・読書指導を進めている。	C A
15	自分は、小規模校の特性を生かした教育活動を図っている。	A A
16	自分は、笑顔で子どものやる気を促し、豊かな表情で子どもとかかわっている。	A A
17	自分は、家庭への連絡や相談をきちんと行い、「誠意とスピード」で対応している。	B A
18	自分は、登下校や学校生活の子どもの安全に配慮している。	A A
19	自分は、不登校やいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	A A
20	自分は、地域との連携を大切にしている。	A A
21	自分は、特別支援を要する児童について、情報を共通し、適切な支援をしている。	A A
22	自分の校務分掌について着実に取り組んでいる。	B A
23	職員間は、日々の教育活動における問題や悩みを気軽に相談できるものになっている。	A A
24	職員間は、不祥事防止について意識を高めるとともに、チェック機能が働くものになっている。	A A
25	児童は、自ら考える子に育っている。	B A
26	児童は、心豊かな子に育っている。	A A
27	児童は、たくましい子に育っている。	A B
28	八木南小学校は、“えがおとつながりを大切にする学校”となっている。	A A

(2) 考察

- (No.1, 3, 7, 11, 15, 19, 23, 26, 28) の9項目で100%という全職員が肯定的な評価をしている。しかし、職員の評価と保護者、児童の評価の差が大きい項目(No.2, 15)については、教職員の独りよがりにならないようにしていきたい。様々な研修を通して指導力の向上をはかりたい。さらに学校体制で教師力を向上させていきたい。
- (No.2) 保護者と職員の評価の差がある。保護者と職員の基礎・基本とは何を指しているのか再度確認し、指導方法にも工夫が必要であると考え。
- (No.4) 教員が家庭学習のあり方を考える必要がある。子供たちが主体的に取り組める家庭学習を教員が仕組んでいかなければならない。
- (No.5) 図書室の利用も含めて、読書指導を再考する必要がある。
- (No.6) 保護者、児童、職員共に70%台である。児童だけ評価が上がり、保護者、職員共に下がっている。今年度は「あったらおじぎ、いつも、さきに、つたえたい気持ちで」を合い言葉に取り組んでいる。「あいさつ」=「おじぎ」と児童は捉え、保護者や職員は「あいさつ」=「声にだして言う」と捉えている違いと考える。コロナ禍であるが、声に出して「あいさつ」する指導を継続していきたい。
- (No.9) 保護者、児童は評価が下がり、職員は評価があがっている。職員は、リズム縄跳びの取り組みを評価し、保護者、児童はリズム縄跳びの取り組み以前を評価していると考え。職員からの仕掛けをこれからも取り組んでいきたい。
- (No.10) 職員は94.9%、保護者は81.9%で12.5%の開きがある。それぞれ学校生活、家庭生活での評価であると考え。家庭、地域、学校が協力して指導にあたりたいと考える。
- (No.14) コロナ禍の中で教育課程を年度内に終了させるために指導が行き届かなかったと考える。来年度は計画的に進めるようにしていきたい。
- (No.19) 不登校やいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいるが、不登校児童がいる職員が評価を低くしたために減少したものである。これからはしっかりと取り組んでいきたい。
- (No.25) 5.2%の上昇。児童の評価(自分の考えを発表している)も3.0%上昇した。今までの研究の成果であると考え、まだ不十分さを感じる。学習の本質に迫るために全職員がしっかりと取り組んでいかなければならない課題の一つである。
- (No.27) 様々な行事や取り組みを通して「たくましさ」が育つと考える。多くの経験をさせることを来年度取り組ませたい。
- (No.28) 全職員が意識して取り組めた。学校教育目標の“えがおとつながりを大切にする学校”が達成できていると回答している。今後も自分たちの教育実践を振り返りながら、子供たちのよりよい成長のために努力していきたいと思う。